

『袴田巖 夢の間の世の中』

静岡地裁の再審開始決定により、2014年3月に釈放された袴田巖さんの日常を追ったドキュメンタリー映画。『SAYAMA 見えない手錠をはずすまで』で、仮釈放となった石川一雄さん夫妻の日々を追った金聖雄監督は、本作では釈放直後から1年半にわたって、浜松で暮らす巖さんと姉の秀子さんに密着する。

無表情に家の中を歩き回る巖さん。「自分のつくった世界」と現実の世界を行き来する巖さんは、少しずつその表情を変えていく。金監督に将棋で完勝してニヤリとし、来

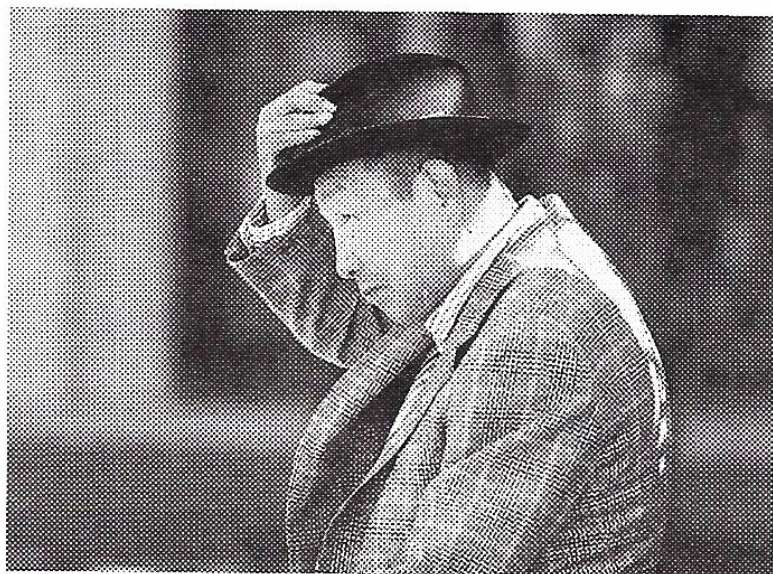
ありのままの日常に寄り添う

訪した親戚の赤ちゃんを慈しむ。ボクシング観戦では、自らリング上に上がり「血が躍りますね」と語る。散歩は日課になり、1人で買い物にも出かける。

姉弟の「ありのまま」の日々が、静かに丁寧に映し出され、観客は、想像を絶する48年間の獄中生活に思いをはせずにはいられない。そして、同じ長い時間、巖さんを支え続けてきた秀子さんのすくとした立ち位置にはほれぼれとする。弟をそのまま受け入れ、常に気配りしつつも、不要な干渉を避け、「私は私」と淡々と自分の暮らしを続けていく。

タイトルは、巖さんが獄中から友人に送った手紙の中の言葉だそうで、巖さんの自筆。ナレーションを排し、巖さんが獄中でつづった日記の言葉を挟みながら、2人の暮らしにゆっくりと寄り添う映像が、見る者を深い感慨と思案の世界にいざなう。

(じょうづかさえこ)



↑東京のポレポレ東中野で公開中。ほか全国順次公開。©Kimoon Film